

みんなで創ろう、新たな1ページ



創立60周年というクラブにとって記念すべき今年度、会長の大役を仰せつかりました大箭です。伝統ある茅ヶ崎ロータリークラブの周年会長、とりわけ新型コロナウイルスの影響が残る中での就任ということで、身が引き締まる想いでおります。最近テレビを見ていますと「トヨタタイムス」つまりトヨタ自動車の情報誌という意味合いだと思いますが、俳優の香川照之氏が世界中のトヨタ社員のインタビューを紹介するコマーシャルがあります。その中で、「深刻になるな。真剣になれ」という言葉を紹介しています。私も「深刻になるな。真剣になれ」という心構えで一年間を乗り切っていきたいと思っております。

さて、今年は新型コロナウイルスの影響で、当初3月に予定されていたPETSが延期となり、結局、例会が自粛されていた期間中の4月29日にオンラインで実施されました。例年ですとPETS終了後すぐの例会でPETS報告をすることが慣例でしたが、今年はPETS報告も無く、従いましてRIや地区の方針についてお知らせする機会がありませんでした。また、クラブ委員会活動計画書のお手元への配布が来週の予定となっておりますため、会長方針につきましても理事や各委員長を除く会員の皆様には、初めてお話をさせていただくこととなります。限られた時間の中で全ての項目を詳細にわたってご説明するのは難しいかも知れませんが、今年度の大枠の方向性をご理解いただければと思っております。

まず、2020-21年度のRI会長のホルガー・クナーク氏について触れておきたいと思っております。同氏はドイツ、ヘルツォークトゥム・ラウエンブルク・メルンRCの会員で、ロータリーでの経歴はこのようなとなっております。

2020-21年度RIテーマは「ロータリーは機会の扉を開く」です。従来のあり方に捉われず、「機会をとらえてロータリーを成長させ、より強く、適応力を高め、中核的価値観により沿ったロータリーとなる」ことを目標としています。

このテーマについて、同氏が語った今年1月の国際協議会のスピーチからの一部抜粋をご紹介します。おきたいと思っております。

「ロータリーは変わらなければなりませんし、必ず変わります。(中略) ポール・ハリスが言ったように、時に革命的でなければなりません。そして、革命的であるべきときは、まさに今なのです。その一つの方法は、新クラブのモデルを作り、ロータリー会員であることの意味を考え直すことです。(中略) 新しいアプローチに心を開かなくてはなりません。」

「数字を掲げて成長を求めるようなことはしません。(中略) 皆さんには、数字にこだわる代わり

に、有機的かつ持続可能なかたちで、いかにしてロータリーを成長させることができるかを考えていただきたいと思います。いかに現会員を維持し、クラブにふさわしい新会員を募れるか。そして、立ちはだかる課題に立ち向かうため、いかに組織を強くできるか。」

「楽しむための一番の方法は、(中略)皆が集まることです。集まれば、より活動的になることができます。ロータリーのビジョン声明の最初の一語がこの言葉 (together) であることも、驚くことではありません。」

繰り返しになりますが、これは今年1月の国際協議会でのスピーチですので、世界中にコロナが蔓延する前の段階での発言です。正に、現在の状況を暗示しているかのように感じる言葉ではないでしょうか。同氏の言葉からも、「ロータリー活動を続ける意味」が問われていると感じます。そして、この最後の「楽しむための一番の方法は、皆が集まることです。集まれば、より活動的になることができます」というくだりが、ロータリーが変わらず持ち続けている魅力・価値を象徴しているように感じます。それはロータリーにとっての原点に帰ろう、ということだと個人的には理解しております。つまり、今私たちロータリアンが考えるべきことは、ポール・ハリスが提唱したロータリー草創期の精神を堅持しつつ、かつ未来へ続く道を模索することだと RI 会長は訴えているのだと思います。

この RI テーマを受け、第 2780 地区久保田英男ガバナーは、「TOGETHER～+もっと自由に」を地区方針として掲げられました。「仲間が集い、おなじ目標に向けて協力し進むことで、一人では成し遂げられないことを可能に」すると同時に、その輪をより大きく広げて行こう、と語っておられます。

ちなみに、今年度の地区の目標は次の 9 つになります。

- 1) RI 会長テーマおよびビジョン声明・戦略・行動計画・強調事項の推進
- 2) RI ロータリー賞への積極的なチャレンジ
- 3) 会員増強・会員維持・クラブ拡大
 - ・地区会員数を 2021 年 7 月 1 日時点で、2500 人以上に
 - ・女性会員 比率の向上
 - ・新クラブ（衛星クラブ等を含む）の拡大
- 4) 青少年育成の推進
 - ・インターアクト、ローターアクトへの支援・協力の強化、および新クラブ拡大
 - ・RYLA 開催（ロータリー青少年指導者育成プログラム = 若い世代のリーダーの育成）
 - ・青少年交換事業の理解と協力（ちなみに今年度はコロナの影響で中止となり、地区の事業費もカットとなっています）
- 5) クラブの戦略・長期ビジョン策定の推進
- 6) 奉仕活動推進のためのロータリー財団への年次寄付
 - ・地区年次寄付 50 万ドル（1 名 200 ドル）
 - ・ゼロクラブゼロの継続と全会員寄付の達成
 - ・恒久基金 70,000 ドル増（1 クラブ 1,000 ドル以上）

7) 米山奨学会寄付

- ・5000 万円 (1名 20,000 円以上)

8) ポリオ根絶の推進

- ・キャンペーン促進、ポリオデーの実施、寄付目標 100,000 ドル (1名 40 ドル)

9) 『1クラブ1プロジェクト』の継続とプロジェクト支援

さて、私が茅ヶ崎ロータリークラブに入会させていただき、ちょうど7年が経ちました。私が入会させていただいた和田会長年度は、我がクラブ初となる女性会員の入会も含め二桁の新会員の入会があり、直前年度までの会員の減少傾向を覆す、会員増強に関してはエポック的な年度でありました。この年度以降に入会された方の割合が、現在では6割を超えています。

茅ヶ崎ロータリークラブは60年の伝統のあるクラブではありますが、実際に創設当初からの理念について語れる方は少数になりつつあるという現実が目前にあることを、まずは認識する必要があると思っております。また、ロータリークラブ自体もこの60年の間に目指すところが変わってきていることも否めないと思います。このような現実を目の前にして、今、私たちが為すべきことは何なのか。60周年というのはそれを見つめ直すちょうど良い機会なのではないかとも思います。

私は常々両親から「完璧な人間などこの世の中に存在しない、誰にでも良いところと悪いところがある、大事なことは、人の良いところを見てあげることだ」と教わっていました。ロータリークラブの会員の皆さんは、もとより一国一城の主で、素晴らしい部分をたくさん持っている方の集まりです。そんな皆さんがクラブの中のそれぞれの持ち場で力を発揮していただくことができれば、それぞれの持つ個性をうまく繋いでいくことができれば、これはとんでもなく大きな力になると思いますし、会員それぞれがクラブの中で居場所を見つけることにもなります。それこそがクラブの存在意義でもあり、クラブの発展に繋がると私は思います。さらに言えば、それは正に、ロータリーの中核的価値観の言うところの多様性を認め合うことだと私は理解しております。人はみな違って当たり前なので、それぞれの人々がロータリー活動にける熱量も違うだろうし、求めるところも違います。ある人にとっては親睦が一番重要かも知れませんが、ある人は社会奉仕を通じた達成感を第一と考えるかもしれません。その中の誰か一人が正しいということではなく、ロータリーという大枠の中でお互いを認め合い、高め合えるものであれば良いと私は考えています。そしてこの60周年の年に、皆さんが協力し合って、それぞれの心に残る何か、それは奉仕活動であれ、親睦活動であれ、茅ヶ崎ロータリークラブの60周年という年度を共有できたことでみんなが幸せになれるような、そんな年度にしていけたら素晴らしいだろうなと思っております。

そんな意味を込めて、今年度の会長方針を「みんなで創ろう、新たな1ページ」といたしました。

1) 何と言いましても今年は創立60周年ですから、まずは記念式典、記念事業など、クラブの軌跡として記憶に残るものをみんなで形にしていきたいと思っております。現在のところ、記念式典は2021年4月16日(金)大磯プリンスホテルを予定しています。15日(木)に前夜祭、16日の昼の時間帯に台北西北クラブからの来訪者らのエクスカッションを兼ねた、家族旅行を計画しております。また、記念事業の一つとして、9月12日(土)に茅ヶ崎市民文化会館で開催予定の宝塚第一回茅ヶ

崎公演に、「茅ヶ崎ロータリークラブ 60 周年記念事業」という冠を付けて協賛いたします。これは高松宮妃の癌研究基金のチャリティーを兼ねた公演でもあり、開催当日のお手伝いと協賛金の協力の依頼も受けておりますが、今回のコロナ禍を受けて、収入の一部を茅ヶ崎の医療活動への寄付とすることも検討されておりますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

記念事業はこの他にも検討中であり、また記念誌の発行なども予定しておりますので、別途 60 周年実行委員会で詳細を検討の上、皆様にも都度アナウンスして行ければと思っております。

2) 5年後10年後のクラブのあるべき姿を見据え、特に会員歴の短い会員が積極的に活動に参加できるように後押しします。

先述の通り、私が茅ヶ崎RCに入会させていただいた年度以降に入会された方の割合が、現在では6割を超えています。どんな組織であっても、その組織が継続していくためには、次代を担う人達の育成が重要なテーマとなってきます。60周年を迎える当クラブが、その伝統を守っていくためにも、会員歴の短い会員が積極的に活動できる土壌を作っていくと考えています。その意味で、何人かの委員長未経験の方にも、今回は委員会の長をお願いしました。また時限的に、「クラブ活性化委員会」と「諮問委員会」という2つの委員会を発足させました。「クラブ活性化委員会」は、今後のクラブのあるべき姿を見据え、クラブ内の組織の在り方や各委員会同士の連携を模索したり、目標とすべき会員数、あるいは変更すべき定款・細則の内容であったり、各年度を超えて共有していくべき、クラブ活性化のためのテーマについて考えていただく委員会として会長エレクトの古知屋さんに委員長をお願いしました。また一方で、様々な新しい取り組みを試していく過程で、当クラブの守るべき伝統と齟齬が無いか、検証していただくため、「諮問委員会」を設置し、田中パストガバナーに委員長をお願いいたしました。

茅ヶ崎クラブが、新しい1ページを創っていく上で、欠かせない取り組みだをご理解いただければと思っております。

3) 進化し続けるインターネット社会に対応していくため、ホームページの活用の他、ウェブ例会、ペーパーレス化などの可能性も検証していきます。

ホームページにつきましては、前年度から総会・理事会の議事録の掲載、週報の掲載、会員名簿の掲載など、会員専用のページを設けて、情報共有の場にすべきだという意見がありました。加えて、ホームページは今や企業や団体にとって無くてはならない「顔」あるいは「名刺」のようなものであり、一般の方がロータリークラブとはどんな活動をしているのか確認しようとしたとき、まず見るのがホームページです。ホームページをより充実させることが、公共イメージアップ、ひいては会員増強にも繋がるものと思っております。

また今回、コロナウィルスの影響で例会の開催を自粛せざるを得ないという前代未聞の事態が起きました。しかも、まだ完全な終結を見た訳ではなく、いつまた同じような状況が再燃するかも知れない、不透明な状況が続いております。例会の自粛が長引くことでロータリー活動の停滞が余儀なくされ、会員の皆様の交流も図れない状態が続くことを避けるための手段を模索し、検討して行くことも喫緊の課題であると認識しております。ウェブ例会の実施ありきではありませんが、前年度にアンケートも実施し、会員の皆様の想いや現状の問題点なども確認させていただきました。クラブがより良い形で進んで行けるように知恵を絞っていきたく思います。

4. ロータリー賞に掲げられた25の目標のうち、13項目の達成（受賞のための最低ライン）を目指します。

RIではロータリー賞の目標として25項目を挙げています。茅ヶ崎クラブとしては、このうちの13項目を今期の目標に設定しました。

1. 奉仕活動への参加
2. 新会員の推薦
3. ロータリー行動グループへの参加
4. リーダーシップ育成への参加
5. 地区大会への出席
6. 地区研修への参加
7. 年次基金への寄付
8. ポリオプラス基金への寄付
9. 奉仕プロジェクト
10. インターネット上の存在感
11. 親睦のための活動
12. ウェブサイトとソーシャルメディアの更新
13. クラブのプロジェクトのメディア掲載

大変厳しい時代ではありますが、今年度60周年を迎える茅ヶ崎クラブの会長として、皆様の力をお借りしながら、誰もが有意義だと感じてもらえるようなクラブにしていきたいと思えます。どうか皆様のご協力を切にお願いいたします。ご清聴、ありがとうございました。